

由利本荘市 第三セクター等経営健全化方針

この方針は、相当程度の財政的なリスクが存在する第三セクター等と関係を有する地方公共団体が、当該第三セクター等の抜本的改革を含む経営健全化のための方針を定めるものである。

1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和5年10月30日

作成担当部署 観光振興課、大内総合支所産業建設課

2 第三セクターの概要

法人名 株式会社大内町交流センター

代表者名 代表取締役社長 伊藤 晃智

所在地 由利本荘市岩谷町字西越36番地

設立年月日 平成11年5月28日

資本金 86,400千円 【由利本荘市の出資額（出資割合）44,000千円（50.93%）】

業務内容 由利本荘市大内地場産業振興施設、由利本荘市大内総合交流ターミナル「ぼぼろっこ」、由利本荘市総合交流ターミナル温泉宿泊施設「ぼぼろっこ」、由利本荘市大内多目的広場及び由利本荘市大内交流広場の管理運営

3 経営状況、財政的リスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

大内総合交流ターミナル「ぼぼろっこ」は、市民の心身の健康増進及び都市住民との交流、コミュニティ活動の促進を図り、ゆとりある市民生活の実現と福祉の向上に資するため、旧大内町で運営されていた国民宿舎「楠山荘」の後継施設として整備され、その管理運営のために株式会社大内町交流センターが平成11年に設立され、現在に至っている。

株式会社大内町交流センターの経営状況は、平成28年から赤字決算が続き、令和4年度には債務超過に陥っている。令和元年からの新型コロナウイルス流行により売上が大幅に減少し、令和2年には羽後信用金庫から2,000万円を借り入れた。令和4年度には、経営悪化の報道や将来への不安、市内企業の大規模な求人活動により離職者が相次ぎ、人員不足に直面した。その結果、レストランの席数やメニューの縮小、営業時間の短縮を余儀なくされ、売上の回復が難しい状況にある。

市は、エネルギー価格高騰対策支援事業等を通じて物価高騰に対する財政支援を行うとともに、取締役会等に職員を出席させ運営支援を行っている。

4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

大内地域の重要な交流拠点であり、市民の健康増進やにぎわい創出に欠かせない施設であるが、高齢化や人口減少に加え、地元タクシー業者の廃業やコミュニティバス利用者の減少、新型コロナウイルス感染症の流行により、葬儀や法要後の食事会の中止が常態化し、売上の伸び悩みが続いている。宿泊部門では、ネット予約を中心に受注があるものの、平日のビジネス客は素泊まりがほとんどのため、売上の増加には繋がっていない。事業を継続するためには、今後も借入れが必要になる可能性があるため、事業承継やM&Aの検討を進め、従業員が安心して働ける環境を整える必要がある。

市では、令和2年12月の市議会による「第三セクターに係る調査特別委員会の調査に基づく提言」とそれに対する市の考え方を踏まえ、令和4年3月に「第三セクターの見直しに関する指針」を策定しており、法人が経営悪化状態と認められる場合には、その解消を図るため「経営改善計画」の提出を求めることとしている。

株式会社大内町交流センターについては、単年度収支及び剰余金がマイナスであるため、令和4年度から3年間の計画の策定を求め、毎年度改善に向けた点検・評価を行っており、進捗状況によっては、事業の存廃や法人のあり方についても検討することとしている。健全化の取り組みとしては、不足している従業員の確保に向けたあらゆる手段を講じるとともに、経費や料金の抜本的な見直し、近隣施設との連携による相乗効果の創出を検討していく。

5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

・人材不足により、サービスを縮小し営業時間を縮減しているため、最優先課題として調理人1名を補充し、レストランのメニュー、席数、営業時間を元に戻す。サービススタッフも不足しているが、人件費抑制のため、正社員ではなく学生アルバイトを補充する。秋田県観光連盟の県内学生アルバイト斡旋事業や秋銀求人マッチングアプリを利用する。スタッフが揃えば法要宴会や、1日に複数の宴会にも対応可能となり、売上増が見込める。

・経費の見直しとして、電気料金軽減のため市場連動型業者への切り替えを検討する。見積では年間500万円弱の削減が見込まれるが、国内のエネルギーの状況次第では急激な料金上昇リスクがあるため、現業者とも協議し慎重に対応する。また、各種料金設定や変更についても、類似施設との比較や関係者の意見を踏まえ進める。

・関係施設・団体との連携では、周囲の総合体育館、農産物直売所、伝承館との話し合いを行い、10月にイベントを実施した。今後も、由利本荘市東部の交流エリアとしての相乗効果を目指し、サービスの工夫に取り組む。

・令和5年度中に人員補充を完了し、令和6年度を万全の態勢でスタートさせ、令和8年度までに純資産のマイナスを解消する。

6 法人の財務状況

貸借対照表から	項目	金額（千円）		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	資産総額	41,701	40,695	23,153
	（うち現預金）	（ 31,400 ）	（ 31,494 ）	（ 13,976 ）
	（うち売上債権）	（ 1,401 ）	（ 2,536 ）	（ 2,779 ）
	（うち棚卸資産）	（ 3,395 ）	（ 2,844 ）	（ 3,284 ）
	負債総額	31,968	33,866	29,823
	（うち由利本荘市からの借入金）	（ 0 ）	（ 0 ）	（ 0 ）
	純資産額	9,733	6,828	△ 6,670

損益計算書から	項目	金額（千円）		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
	経常収益	92,264	113,813	124,944
	経常費用	159,066	169,739	173,895
	経常損益	△ 66,802	△ 55,926	△ 48,950
	経常外損益	40,727	53,205	35,642
	当期純損益（税引後）	△ 26,259	△ 2,904	△ 13,492